府立西野田工科高等学校
校　長　谷　　通弘

令和６年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

西工の伝統と創立時の校憲に基づく「尊敬される職工の育成」に取り組み、大阪の産業界を担うものづくり人材を育成する大阪一の工科高等学校をめざす
１　ものづくり教育により、実践力と社会の技術の進展に対応できる力を身に付けさせるための指導を行い、社会で活躍できる生徒を育成する
２　全ての教育活動において、チャレンジ精神と協働性を醸成する指導を行い、様々な課題を発見し、解決できる力を持つ生徒を育成する
３　実践的技能養成重点校として、資格、検定、コンテスト、競技会、企業等との連携など様々な活動に取り組ませ、意欲ある生徒を育成する

２　中期的目標

１　確かな学力と学びに向かう力を育成する学校

（１）基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「主体的・対話的で深い学び」をめざして授業改善に取り組む。
ア　少人数展開授業やICT機器の活用とともに公開授業や研究授業を積極的かつ組織的に推進し、学校全体の授業力を向上させるとともに、生徒の学びに向かう意欲と授業満足度を向上させる。
イ　外部テスト「基礎力診断テスト」を活用し、基礎学力の充実を図る。
ウ　PBL学習を推進する。「キャリアガイダンス」「総合的な探究の時間」や「課題研究」での全校的な取組みを計画的に進め、生徒の主体性・自己肯定感を育成する。
エ　グローバル化や情報化が加速度的に進展する社会で、必要となる語学力（英語）の育成に努める。
＊生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく行われている」を向上させ、令和８年度まで肯定率90%以上を維持する。（R３　86%、R４　87%、R５　92%）
＊年１回４月に実施している外部テスト「基礎力診断テスト」における最下位層の人数割合を減少させる。
＊生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率85%以上を維持する。（R３　86%、R４　86%、R５　87.1%）
＊リスニング英語検定にチャレンジする生徒の延べ人数25名以上（R３　52名、R４　８名、R５　23名）をめざし、あわせて合格率35%以上をめざす。
（２）生徒に自信と意欲を持たせるために、実践的技能養成重点校として、製造現場で役立つ国家資格・各種検定試験等の取得・合格をめざすとともに、各種コンテスト等への応募や競技会等の出場、企業等との連携などの体験活動に積極的に取り組ませる。
＊卒業までに３つ以上の検定・資格を受検させ、その取得・合格をめざす。
＊各種コンテスト応募や競技会等出場への指導と資格等取得により、ジュニアマイスター顕彰受賞者10人以上をめざす（R３　21人、R４　18人、R５　12人）

２　規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校

（１）教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づき毅然とした生活指導を行い、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時の自転車マナー指導を徹底するとともに、学校全体で５Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・躾）を推進する。
＊遅刻生徒数500以下の維持をめざす。（R３：533件、R４：461件、R５：711件）
＊転学、退学生徒数の合計で令和８年度までに９人以下をめざす。（R３：10人、R４：22人、R５：15人）
（２）人権教育や様々な講演会・研修を推進し、人権感覚や人権意識の向上を図り、社会人に相応しい人格と態度を養う。
ア　発達段階に応じた人権教育や安全指導、薬物乱用防止、マナー向上等の多彩な講演会・研修を実施する。
＊生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率90%以上を維持していく。（R３　89%、R４　90%、R５　92%）
（３）生徒の自己実現への支援に努める。
ア　教育相談体制の充実を図り、生活指導部・学年・系の連携による生徒支援と教育相談活動を行う。
イ　三か年を通した進路指導計画に基づき、キャリア教育の充実に努め、生徒の豊かな勤労観・職業観の育成に取組み、就職内定率向上と離職率低減を図る。
ウ　生徒の夢や希望を実現するために、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・職業教育を行い進路指導の充実を図る。
＊学校教育自己診断の「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定率80%以上を維持する。（R３　82%、R４　77%、R５　80.2%）
＊学校教育自己診断の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率80%以上をめざす。（R３　71%、R４　56%、R５　77.8%）
＊就職率100%を堅持するとともに生徒の進路決定率100%をめざす。離職率調査において、自己実現のための離職を除く３年以内の離職率30%未満を維持する。（R３　30.4%、R４　32%、R５　23%）
＊生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率90%以上を維持する。（R３　91%、R４　93%、R５　93.5%）

３　安全安心で魅力ある学校

（１）生徒会活動や各種イベントへの積極的な参加等、生徒が主体的に関わる活動を推進する。また部活動の活性化を推進する。
ア　産業教育フェア、中学校訪問、地域小中学校との連携やものづくりイベント等の行事に、生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく。
イ　部活動の活性化に向けた取組みを積極的に推進する。
＊部活動の加入率50%以上を維持する。（R３　65%、R４　56%、R５　55%）
（２）公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。
＊保護者向け学校教育自己診断「学校行事（体育祭・文化祭・授業参観等）に参加したことがある」を向上させ、令和８年度には肯定率65%以上を達成する。（R３　37%、R４　53 %、R５　66%）
＊保護者向け学校教育自己診断「学校では、PTA活動は活発である」を向上させ令和８年度には肯定率80%以上を維持する。（R３　58%、R４　67%、R５　80%）
＊保護者向け学校教育自己診断「学校は、教育情報について提供の努力をしている」を向上させ肯定率80%以上を維持する。（R３　85%、R４　89%、R５　84%）
（３）生徒に対しての防災教育を推進し、防災意識を高めるとともに、防災マニュアルの更なる見直しに取り組み、学校の危機対応能力を高める。
＊生徒向け学校教育自己診断「学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」の肯定率85%以上を維持する。（R３　79%、R４　88%、R５　89%）
（４）学校ウェブページの充実や教育プラットフォームの活用、小中学校への出前授業を推進し、学校の魅力発信に取り組む。
ア　教員による小中学校への出前授業や地域ものづくりイベントへの協力・連携等を推進し、情報発信する。

４　校務の効率化と働き方改革の推進

（１）ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
＊教職員向け学校教育自己診断における校務の効率化に関する項目の肯定率について70%をめざす。（R４：51%、R５：62%）
（２）学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。
＊働き方改革を推進し、時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。

府立西野田工科高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和６年 11 月実施分］	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・(生徒) 学校満足度は 78%とおおむね高い水準を維持できている。(R５ 82%、R４ 78%)。授業では「ICT 機器などを活用して、わかりやすく行われている」89% (R５ 92% R４ 87%、R３ 86%、R２ 77%)、「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」90% (R５ 87% R４ 86%、R３ 86%、R２ 80%) と定着している。 ・(保護者) 回答率は例年 20%前後で推移。今年度は約 18%にとどまった。「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」は 77%で昨年 (84%) より低下しているが 75%以上の高い水準を維持できている。「授業が分かりやすく楽しいと言っている」66% (R５ 71%、R４ 81%、R３ 76%) と低下がみられる。生徒の評価とは逆となっている。今後、担任による面談の機会に必要に応じて支援担当者を加えるなどをおこない、状況把握と改善につなげていく。 ・(生徒)「１人１台端末を効果的に活用」については 86% (R５ 85%、R４ 79%) と活用が定着していることがうかがえる。一方で (教員)「生徒の実態に踏まえ、個別の指導内容・指導方法について工夫・改善を行っている」が 76% (R５ 78%、R４ 78%、R３ 83%) と低下傾向が続いている。研究授業の活性化や働き方改革推進による教員の時間確保等により、教科指導面を含めた学習指導の改善について校内で検討を進めたい。今後も、授業や教科指導、資格・検定指導や生徒のアウトプットを意識した指導等について改善・充実をはかり、満足度を維持・向上させていく。 【生徒指導等】 ・生活面では (生徒)「あいさつをしている」94% (R５ 98%) と高い。(保護者)「子どもは、日頃からあいさつしている」90% (R５ 92%)、(教員)「生徒は、日頃からあいさつをしている」94%といずれも肯定率は高い。本校の指導方針をしっかりと理解し取組みが定着している。今後も維持していく。一方で「遅刻をしないように意識している」生徒が 95% (R５ 96%) となる中で、「子どもが西工に入学してから、中学生の頃と比べて遅刻は減っている」(保護者) 80% (R５ 74%)、「生徒の遅刻は、西工に入学した時と比べて減っている」(教員) 25% (R５ 60%) と極端に低い。遅刻指導により生徒の意識は非常に高まっているが、特に教員からは十分ではないと評価。引き続き遅刻指導を継続していく (生徒)。「気軽に相談できる先生がいる」R６ 85% (R５ 80%、R４ 76%、R３ 82%、R２ 74%) と相談体制についても肯定的意見は高く、「生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」(教員) R６ 86% (R５ 88.9%) や「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」(保護者) 92% (R５ 93%) と高い。 「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」(教員) R６ 70% (R５ 78%) と 70%以上を維持。生徒・保護者ともに指導面での信頼感に繋がっていることがうかがえる。いじめ対応では生徒 90%・保護者 87%・教員 78%と高い肯定率を維持している。あわせて「先生の指導には納得できる」(生徒) 74% (R５ 83% (R４ 76%、R３ 77%) や「指導方針に共感できる」(保護者) 84% (R５ 86%、R４ 91%、R３ 86%) であった。 ・進路指導やキャリア教育面については、(生徒)「自分の将来について考える機会は充実している」89% (R５ 94%、R４ 93%、R３ 91%、R２ 90%) や、(保護者)「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」93% (R５ 95%) と高い評価を得た。生活面や進路面での指導等については、教職員が一丸となって指導に取り組んでいる成果であり、本校の強みを今後も継続していく。 【学校運営等】 ・(生徒)「学校行事 (体育祭・文化祭・修学旅行等) は楽しく行えるよう工夫されている」が 85% (R５ 92%、R４ 86%、R３ 77%) となった。体育祭が熱中症対策で短縮された影響等で昨年より若干下がったが、高い評価を維持している。学校行事・部活動は来年度以降の閉校に伴う学年数・生徒数に対応したより効果的な活性化・充実化の方法を工夫していく。また「この学校の学校行事 (体育祭・文化祭・授業参観等) に参加したことがある」(保護者) については肯定率 79% (R５ 66%、R４ 53%、R３ 37%、R２ 57 %) と 13 ポイント向上した。引き続き保護者が参加する機会を作り、信頼される学校づくりを推進していく。 ・(保護者)「学校は、教育情報について、提供の努力をしている」87.%（R５ 88%、R４ 88.7%、R３ 85.4%) と高い肯定率を維持している。「必要な情報について周知に努めている」(教員) 80% (R５ 84%、R４ 80%、R３ 69%) についても継続的な取り組みができている。	(第１回) ７月２日 ・デジタルだけでなくアナログの学習を通して、学校生活でしか体験できないことも多いと思うので、そのような経験をこれからも数多くさせ、生徒の発想力、芸術的な素養なども育成してほしい。 ・今宮工科高校との機能統合で本校は閉校になるが、西野田工科高校の思い (たましい) をしっかりつないでいくようなことを検討してほしい。今年度の１年生は、下級生が入ってこないが、自信をもって進級卒業できるようにしっかりと育成、指導してほしい。 ・来年以降、生徒数や教員数が少なくなっていくが学年、分掌、系・教科の報告から先生方の生徒への思いに感銘を受けた。これからも先生方がモチベーションを保って一致団結し生徒に満足してもらえるよう頑張ってほしい。 ・実際の製造現場の多くは人手不足となっている (大多数が高齢者や外国人に頼っている)。生徒達には、工科高校で学習し、育ったことを誇りに思い社会で活躍してほしい。 ・就職ついて１次での内定率は 90% (昨年) であることは素晴らしい。先生方の指導のおかげと思う ・学校ホームページでも行事の様子など子供たちの様子を発信していただきうれしく思う。PTA でも活動案内を SNS で発信し、保護者も楽しめるような呼びかけを行っている。学校と保護者で協力しながらやっていきたい。 (第２回) 10 月 29 日 ・体育祭に参加させていただき、コロナ禍前の生徒たちの活気が戻ってきて大変うれしく思った。生徒たちを盛り上げる先生方の熱意も素晴らしいと感じた。 ・来年度以降、学年数、生徒数が減り、今まで当たり前にやれていた体育祭や文化祭の学校行事が寂しくなってしまわないように工夫をお願いしたい。その際は、保護者、同窓生の競技への参加、先生対生徒の競技を増やすなど検討をしてほしい。 ・英語リスニング検定の結果について受験者数は目標に対し未達ではあるが、合格率が 75%と高かったこと、特に２年生は受験者全員が合格しているのは素晴らしい。挑戦した生徒たちが頑張ったことと先生方が講習会を繰り返し行い丁寧な指導を行っていただいた成果だと思います。 ・学校行事や資格指導など学校の様子や各部署からの報告を聞かせてもらったが、閉校が決まってしまった学校とは思えない活気と先生方の熱意を感じた。引き続き、先生方と生徒たちの活気と熱意を保ちながら頑張っていただきたい。 ・報告を聞き先生方の生徒への愛情を感じた。生徒数が少なくなる中で先生と生徒のつながりを深めていくことが大切かと感じた。例えば、HP のブログなどを使い「先生方のつぶやき」を発信し先生の思いを生徒や保護者に伝えるなどの取り組みをしてみてください。 ・３年後の閉校に向けて、いろいろな意見を聞く受け皿を作ってほしい。生徒のこんなことをしてみたいとの思いはぜひ聞くようにしてほしい。また、本校のグランドを使った近隣の商店街や住民とコラボレーションした催しなどを行い、長くお世話になった近隣の方々への感謝を示すことも考えてほしい。学校運営協議会として閉校に向けた様々な支援や助言もしていくので遠慮せず相談してほしい。 (第３回) ２月 12 日 ・来年度は１年生が入学してこないが、２年生、３年生は西工の学校生活に慣れていたり、先生方との関係性がすでにできていると思うので、従来１年生に注いでいた力を２、３年生の指導に使っていただき、よりよい西工にしていただきたい。最後の学年まで、西工にきてよかったという生徒を増やしてほしい。 ・学校教育自己診断では、あいさつや教育相談の項目で、生徒・保護者の評価は高く、先生方の自己評価は厳しくなっているが、これは、先生方のより良くしなければとの思いだと思う。先生方は、自信を持って生徒とともに楽しみながら指導に当たっていただければと思う。 ・課題研究の発表を見させていただき、生徒が司会をするなど生徒が主体で動かしていることを感じられた。今後、学年数が少なくなる中で様々な行事や取り組みの工夫が必要になると思うが、生徒たちの自主性をより大切にしていろいろな場面で生徒たちが意見を出し決めていけるようにしてほしい。 ・課題研究の発表大会では、各計１グループずつの発表であったが、より多くの生徒たちに全校発表の機会があればよいと思う。２年生、１年生に発表を見てもらうことは、次年度以降の学習の目標がわかるので大変良いと思う。 ・遅刻者数が増えているとの報告があったが、コロナ禍の影響などで不登校生徒が増えているなども影響していると思う。中学校でもＲ５卒業生 (現高校１年生) の不登校数が多く、その後、減少傾向が見られる。引き続き丁寧な生徒の指導をしていただき、遅刻せず学校に登校できる習慣を身につけさせていただきたい。

府立西野田工科高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R５年度値〕	自己評価
１　確かな学力と学びに向かう力を育成する学校	（１） 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「主体的・対話的で深い学び」をめざして授業改善に取り組む。	（１） ア・少人数展開授業やICT機器の活用とともに公開授業や研究授業を積極的かつ組織的に推進し、学校全体の授業力を向上させるとともに、生徒の学びに向かう意欲と授業満足度を向上させる。 イ・外部テスト「基礎力診断テスト」を活用し、基礎学力の充実を図る。 ウ・PBL学習を推進する。「キャリアガイダンス」「総合的な探究の時間」や「課題研究」での全校的な取組みを計画的に進め、生徒の主体性・自己肯定感を育成する。 エ　グローバル化や情報化が加速度的に進展する社会で、必要となる語学力（英語）の育成に努める	（１） ア・学校教育自己診断（生徒）「項目⑤ICT機器を活用した授業」肯定率85%以上〔84.5%〕をめざす ・授業公開週間を年２回〔１回〕設定する。また、研究授業回数４回以上〔４回〕 ・学校教育自己診断（生徒）項目④授業満足度90%以上〔92%〕を維持する ・学校教育自己診断（生徒）項目⑥「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」肯定率85%以上を維持する〔87.1%〕 イ・毎年度４月に実施している外部テストの結果、１年→２年、２年→３年の経年変化による D３マイナスゾーンの割合を減少させる〔新規〕 ウ・首席を中心として「キャリアガイダンス」「総合的な探究の時間」や「課題研究」の全校的な体制を継続的に見直し、生徒の主体的・協働的に課題を発見し、解決する力の育成を行う エ・リスニング英語検定にチャレンジする生徒の延べ人数25名以上〔R５　23名〕をめざし、あわせて合格率35%以上をめざす	（１） ア・学校教育自己診断（生徒）「項目⑤ICT機器を活用した授業」肯定率：86%（○） ・教員向け授業公開週間を２回（６月、11月）実施（○） ・研究授業実施回数６回（◎） 初任３年以内教員３名、10年経験者１名、他１名２回の計５名６回 ・学校教育自己診断（生徒）項目④授業満足度：89%（△） ※１%ではあるが目標未達。引き続き習熟度授業の更なる推進など、きめ細かな教科指導をおこなっていく ・学校教育自己診断（生徒）項目⑥「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」肯定率:90%（○） イ・D３マイナスゾーン割合は各学年とも昨年度比で減少している（○） ３年生：R５　21%⇒R６　13% ２年生：R５　29%⇒R６　25% ウ・３首席が各授業をそれぞれ担当し系統的に学校全体で PBL への取り組める体制を構築できた。（○） 「キャリアガイダンス」（１年） グループワーク、ポスターセッションで、系選択などを考えさせる 「総合的な探究の時間」（２年） 体験的ものづくり「紙ゼンマイカー」で主体的に分析・改善を体感させる。 「課題研究」（３年） 系をベースとしたグループで自分たちのテーマを決めものづくりを行う。 エ・リスニング検定受験人数12名（①９、②３）（△） ・リスニング検定合格者９名（①６、②３）（75%）（◎） ※受験数未達は生徒数の減少と２年生が他の資格試験と重なって少なくなった。
	（２） 生徒に自信と意欲を持たせるために、実践的技能養成重点校として、製造現場で役立つ国家資格・各種検定試験等の取得・合格をめざすとともに、各種コンテスト等への応募や競技会等の出場、企業等との連携などの体験活動に積極的に取り組ませる。	（２） ア・資格取得、各種検定試験の合格、各種コンテストへの応募や競技会等への参加を積極的に推進していく。 イ・企業等との連携授業や校外での実習・見学・体験活動等を実施する。	（２） ア・資格・検定の一人当たりの受験率115%以上をめざす。〔102%〕 ・ジュニアマイスター顕彰受賞者 10 人以上を維持する。〔12 人〕 イ・授業や実習、課題研究および部活動で、外部との連携講座等の実施件数 30 件以上を維持する。〔30 件〕	（２） ア・資格取得一人当たりの受験率113%（△） ・ジュニアマイスター顕彰受賞者：９人（△） ※資格受験率は昨年より上回ったものの２%の目標未達になった。ジュニアマイスターは１名であるが目標未達になった。引き続き工業の専門高校として専門性の高い資格の取得をめざした指導を推進していく。 イ・外部連携講座等の実施件数15件（△） （内訳）授業・実習関係７件、部活動関係　２件、インターンシップなど　６件 ※募集停止に伴い、学校説明会と中学校への出前授業がなくなったことによる。

府立西野田工科高等学校

2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校	（1） 教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づき毅然とした生活指導を行い、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時の自転車マナー指導を徹底するとともに、学校全体で５Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・躾）を推進する。ア　挨拶運動・遅刻防止指導を推進 （2） 人権教育や様々な講演会・研修を推進し、人権感覚や人権意識の向上を図り、社会人に相応しい人格と態度を養う。 （3） 生徒の自己実現への支援に努める。	（1） ア・挨拶・遅刻指導・スマホ等指導、通学時の自転車マナー指導を徹底し、生徒の規範意識を醸成する。 全ての教育活動で、ものづくりの基本となる５S を徹底し、学校環境の改善に取り組む。 （2） ア・発達段階に応じた人権教育や安全指導、薬物乱用防止、マナー向上等の多彩な講演会・研修を実施する （3） ア・教育相談活動を充実させ、安全安心な学校環境をつくる。SC、SSW との連携による生活指導体制を構築し、個々の生徒の実態に応じた指導を実践する。 イ・三か年を通した進路指導計画に基づき、キャリア教育の充実に努め、生徒の豊かな勤労観・職業観の育成に取組み、就職内定率向上と離職率低減を図る。 ウ・生徒の夢や希望を実現するために、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・職業教育を行い進路指導の充実を図る	（1） ア・遅刻数 550 件以下を維持する。〔711 件〕 ・転・退学者 15 件以下をめざす。〔19 件〕 ・定期的な整理・清掃活動を実施し、施設・設備の整理整頓の意識を向上させる。学校教育自己診断（生徒）項目⑭学校環境の満足度 90%以上を維持する〔91.6%〕 （2） ア・生徒人権教育の実施回数５回以上〔５回〕 ・学校教育自己診断（生徒）の項目⑫「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率 90%以上〔92%〕を維持する （3） ア・学校教育自己診断（生徒）「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」80%以上をめざす。〔80.2%〕 ・学校教育自己診断（教員）の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率 80%以上をめざす〔R５ 77.8%〕 イ・就職率 100%を堅持するとともに生徒の進路決定率 100%をめざす〔100%〕 ・離職率調査において、自己実現のための離職を除く３年以内の離職率 30%未満を維持する〔R５ 23%〕 ウ・生徒向け学校教育自己診断の項目⑨「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 90%以上を維持する〔R５ 93.5%〕	（1） ア・遅刻数：1120 件（△） ・転・退学者数：38 名（転学：13　退学：25）（△） ※生徒の遅刻防止に対する意識は 95%と非常に高い。一部の生徒の遅刻累積および 10 月以降の増加傾向がみられる。学年を中心に家庭と連携しながら継続して指導していく。 転退学の防止については、キャリア教育や担任等からの面談等を通じて、生徒に寄り添い進路実現を図るきめ細やかな指導を実施していく ・日々の掃除当番以外に月１度ずつの大掃除を全生徒で実施している。これにより、５S、安全意識の向上を図っている。 学校教育自己診断（生徒）項目⑭学校環境の満足度：86%（△） ※十分に高い満足度ではあるが目標に対して４%の未達である。引き続き学年や生徒会を巻き込んだ月１度の大掃除の実施。実習時の５S、安全意識の徹底を図っていく。 （2） ア・生徒人権教育の実施回数：６回（◎） 各学年のテーマ（１年：学校生活と人権、２年：アイヌ民族について（北海道修学旅行）、３年：就職面接での違反質問）も取り上げ生徒状況に合わせた人権教育を実施した。 ・学校教育自己診断（生徒）の項目⑫「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率：89%（△） ※１%ではあるが目標未達。引き続き生徒の状況に合わせたきめ細かな人権等の指導をおこなっていく。 （3） ア・学校教育自己診断（生徒）「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定率：　85%（◎） ・学校教育自己診断（生徒）「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率：70%（△） ※教育相談、生徒支援関連の教員研修のさらなる実施などにより、教員の意識向上をおこない支援と指導が一体になった生徒指導をめざす。 イ・生徒の進路決定率：100%（○） 就職者数：100 人 就職の１次内定率：90% ・３年以内の離職率：24%（○） ・学校教育自己診断の項目⑨「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率：89%（△） ※１%ではあるが目標未達となった。 引き続き、進路指導部と学年、系が一体となった系統的なキャリア教育を進める。

府立西野田工科高等学校

3　安全安心で魅力ある学校	（1） 生徒会活動や各種イベントへの積極的な参加等、生徒が主体的に関わる活動を推進する。また部活動の活性化を推進する。 （2） 公開授業を継続するとともに、PTA 活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。 （3） 生徒に対しての防災教育を推進し、防災意識を高めるとともに、防災マニュアルの更なる見直しに取り組み、学校の危機対応能力を高める （4） 学校ウェブページの充実や教育プラットフォームの活用、小中学校への出前授業を推進し、学校の魅力発信に取り組む	（1） ア・産業教育フェア、中学校訪問、地域小中学校との連携やものづくりイベント等の行事に、生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく。 イ・部活動の活性化への取組みを積極的に推進する。 （2） ア・年２回の公開授業を継続するとともに、オンライン等を活用しPTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。 （3） ア・ 地震、津波などの災害を想定した防災訓練を実施し、生徒の防災に対する意識を高める。教職員の対応マニュアルを見直し、学校の危機対応力を高める （4） ア・教員による小中学校への出前授業や地域ものづくりイベントへの協力･連携等を推進し、情報発信する。 ・生徒の学習の取組みや部活動等、学校教育活動の積極定な発信を推進する。	（1） ア・体験入学や産業教育フェア、中学校訪問、地域小中学校との連携やものづくりイベント等の行事に関わる生徒数のべ 80 人以上〔60 人〕をめざす イ・部活動加入率 55%以上を維持する。〔55%〕 ・職員会議等を通じて、部活動大阪モデルの意義を教員に周知し、生徒も含めて効率的な部活動体制を推進。 合同部活動の活動数増加をめざす〔新規〕 （2） ア・学校教育自己診断（保護者）項目⑪「学校行事（体育祭・文化祭・授業参観等）に参加したことがある」の肯定率 65%以上維持〔R５ 66%〕 ・学校教育自己診断（保護者）項目⑫「学校では、PTA 活動は活発である」肯定率 80%以上を維持する〔R５ 80%〕 （3） ア・学校教育自己診断（生徒）項目⑬「地震や火災等への行動について理解している」80%以上を維持する〔89%〕 ・防災マニュアル等の見直しを実施し、ICT を活用した取組みについても推進する （4） ア・近隣区役所等と連携したイベント等への参加を推進するなど各種イベント等への生徒参加を奨励しＨＰ等で発信する。教員による小中学校への出前授業等の企画７回以上を維持〔７回〕 ・学校教育自己診断（保護者）項目⑬「学校は、教育情報について提供の努力をしている」の肯定率 80%以上を維持する〔R５ 84%〕	（1） ア・イベントへの生徒参加人数：82 名（○） （産フェア、西淀川ものづくりまつり、大正ものづくりフェスタ、JAXA 連携授業、メタバースイベントでの発表、ウェルディングショーなど） イ・部活動加入率：45%（△） ※コロナ禍で中学校でのクラブ加入をしていない生徒が高校でも加入しておらず、１年生、２年生の加入が少なく 10%減となってしまった。来年度、新入生が入学しないので年度末現在クラブ参加している生徒のフォローと満足度の向上を確実に実施していく。 ・合同部活動の活動数増加数：１クラブ（○） 現在３クラブ（サッカー、アーチェリー、野球）が大阪モデルを活用している。 （2） ア・学校教育自己診断（保護者）項目⑪「学校行事（体育祭・文化祭・授業参観等）に参加したことがある」の肯定率：78.7%（◎） ・学校教育自己診断（保護者）項目⑫「学校では、PTA 活動は活発である」肯定率：75%（△） ※比較的高い評価であるが、目標に対して５%の未達である。閉校に向けての様々な活動を通じて PTA との連携を強化していく。 （3） ア・学校教育自己診断（生徒）項目⑬「地震や火災等への行動について理解している」の肯定率:89%（○） ・防災マニュアル等の見直しを実施済み。今後、グーグルクラスルームを活用し、外部から教員が必要なマニュアルを閲覧利用できるようにした。（○） （4） ア・イベント参加件数：８回（○） ・学校教育自己診断（保護者）項目⑬「学校は、教育情報について提供の努力をしている」の肯定率：87%（○）
〔新規〕 4　校務の効率化と働き方改革の推進	（1） ICT を活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する （2） 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒･教職員の健康管理体制を充実させる。	（1） ア・ICT 機器を有効活用し教科等における教材の共有化を図る等の他、教育支援クラウドサービス等を用いた事務処理の効率化と会議のスリム化を図る。 （2） ア・「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」や「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿って業務の見直し・効率化を図る。	（1） ア・教職員向け学校教育自己診断における校務の効率化に関する項目⑬の肯定率 70%をめざす〔R５ 62%〕 （2） ア・働き方改革を推進し、時間外勤務月 80 時間以上の職員をなくす〔４件〕	（1） ア・教職員向け学校教育自己診断における校務の効率化に関する項目⑬の肯定率：59%（△） ※校務パソコンのクラウド化や校務処理システムの更新などにより今年度は、教員の負担感が増加した。新システムの利用定着などを進めていく （2） ア・80 時間以上の件数：２件（△） ４月、６月に１件ずつ。 ※全教員の時間外在校時間の平均は、４～６月平均で 21 時間であったが、４～２月平均では 16 時間に低減している。 今後も、職員会議での啓発や個別面談などにより、時間外在校時間縮減に取り組んでいく。